

# 平成 24 年仕事納め式訓示

(本庁・船泊支所)

平成 24 年 12 月 28 日

みなさん、平成 24 年の仕事納めを迎えました。

この一年間、村井副町長、岩城教育長（武田支所長）をはじめ職員のみなさんが、それぞれの立場で、しっかり頑張っていたおかげで、しっかりと町政を進めてくることができました。

あらためて、心から御礼を申し上げる次第でございます。

今年是一年を通して映画「北のカナリアたち」で始まり、終わったという思いであります。無事に終わったこと、また、職員の皆さんにも大変忙しい思いをさせたことに感謝と御礼を申し上げます。今後は、「北のカナリア公園」という形で、本町の新しい観光スポットとして地域の活性化に活用していきたいと考えておりますので、引き続き、ご理解ご協力をいただきますようお願いを申し上げます。

さて、先日、12月24日の日経新聞に企業100人の社長さんに行った「社長100人アンケート」の結果が公表されました。

9月にも同じ調査をしたそうではありますが、今回「国内景気が悪化している」と答えた社長さんは大幅に増え、半数を超えて54.4%だったそうであります。個人消費や設備投資が伸び悩んでいるのが影響しているようです。しかし、今回の選挙による政権交代と経済対策への期待から今後の景気動向、景気の先行きに4割が「改善される」と回答があったそうでありまして、経営者の景況感に底入れの兆し、明るさがでてきたと分析されています。もちろん、ただちに景気回復が実現するとは思いませんが、少なくとも、近い将来に明るい兆しがでてきたことに私は大きな期待をこめ、希望を持って新しい年を迎えることができると考えています。

もうひとつは、先の総選挙で安倍内閣が誕生し、年明けには10兆円とも言われる大型の補正予算が組まれます。そして、この補正に続く来年度の本予算という所謂「15か月予算」で切れ目のない経済対策が行われるわけであります。特に、補正予算には地方の負担を軽減して事業を行いやすくするため交付金制度も検討されているようであります。

これらの効果をわが町の景気回復にもつなげていく、極めて重要な対応が求められるわけでありますので、新年度予算編成も含めた今後の対応についてよろしくお願いを申し上げます。

あの三陸沿岸に押し寄せた忌まわしい大津波から、まもなく2年になろうとしています。一瞬にして家や車、船までも流され、多くの方々が命を失いました。ご家族を亡くされた人、津波で住む家をなくし、住む場所さえ失ってしまった大災害であります。復興も思うように進まないようではありますが、あの大津波が、私たちの礼文島であったなら・・・と思うと今でもぞっとする思いであります。

どうすれば安全に安心して礼文島で元気に暮らしていけるのか？ それは、防災だけの問題ではありません。福祉も教育も産業も建設も、船泊支所も診療所も衛生センターも、役場のすべての仕事、すべての部署、すべての職員に、常に、「そのために私たちは何をすればいいのか？」を考えていただきたいと思います。

皆さんは役場職員として、常に厳しい環境の中に置かれ、地域の活性化のため、町民福祉の向上のためなどなど、多くの課題を抱えながらも、同時に、町民の皆さんから大きな期待も背負って仕事をしているのであります。

しかし、それを、重荷としてとらえるのではなく、皆さんには「ふるさと礼文町を日本一元気な町にするんだ! 」そんな思いを心に置いて、困難さがあっても常に笑顔とやさしさでそれを跳び越えられる「日本一元気な職員」になってほしいと願っているところでございます。

いよいよ、明日から年末年始の休みに入ります。あらためて今年一年のご協力に感謝を申し上げますとともに、普段はなかなかできない大切なご家族との「絆」を深めるお正月にしていいただきたい、そして、きたる新しい年に向かって、しっかりと鋭気を養っていただいて、仕事始めにはまた、元気にお会いすることを楽しみにしております。  
今年一年、本当にありがとうございました。